

オーディオチェック(5)
—オーディオチェックアナログ(2)—

1. 始めに

前報(4)に引き続き、アナログ再生でのチェックを実施します。

2. オーディオチェックアナログの実施方法

アナログの再生経路は前報(4)のとおりです。

使用するチェックシステムは次のものです。

日本コロムビア録音部技術課 DENON TECHNICAL TEST RECORD



下記のナレーション、信号音などが入っています。

SIDE 1 :

バンド1 : 周波数スロースイープ信号、20Hz ~ 20kHz、左チャンネル

バンド2 : 周波数スロースイープ信号、20Hz ~ 20kHz、右チャンネル

バンド3 : 機械インピーダンス測定用信号

バンド4 : 低域共振測定用低域周波数スイープ信号、4Hz ~ 100Hz、

左チャンネル 右チャンネル

バンド5 : ワウフラッター測定用信号、3,000Hz、約100秒間

SIDE 2 :

バンド1 : 1/3 オクターブバンド・ノイズ、中心周波数 25Hz ~ 16kHz、左チャンネル

バンド2 ; 1/3 オクターブバンド・ノイズ、中心周波数 25Hz ~ 16kHz、右チャンネル

ネル

バンド 2 と 3 の中間部 無音溝 (インサイドフォース測定バンド)

バンド 3 : 位相チェック信号、左右同相、逆相、 ± 45 度、 ± 90 度、 ± 135 度

バンド 4 : 基準レベル、1kHz、3.54cm/sec (尖頭値)、左チャンネル

バンド 5 : 基準レベル、1kHz、3.54cm/sec (尖頭値)、右チャンネル

バンド 6 : 無音溝

3. オーディオチェックアナログの実施結果

SIDE 1 のバンド 1 : 周波数スロースweep信号、20Hz~20kHz、左チャンネルは、スタート直後と高域の途中から聴こえないほか、若干のピークディップがあります。

バンド 2 : 周波数スロースweep信号、20Hz~20kHz、右チャンネルは、上記の左チャンネルと同様です。

バンド 3 : 機械インピーダンス測定用信号は、16kHz から 31.5Hz までの信号が L と R で再生されますが、16kHz は聴き取れず、8kHz はわずかに聴き取れるくらいです。右チャンネルの 250Hz でビリつきがあり、左チャンネルの 31.5Hz で共振が認められます。

バンド 4 : 低域共振測定用低域周波数 sweep 信号、4Hz~100Hz、左チャンネルと右チャンネルは、左チャンネルでは途中から聴こえ始めますが、バンド 3 の左チャンネルの 31.5Hz で共振はありません。右チャンネルでは、音として聴こえない低域でスピーカーのバタつきが少しありますが、その他は左チャンネルと同様です。

バンド 5 : ワウフラッター測定用信号、3,000Hz、約 100 秒間は、音の小さい揺れらしきものは感じられませんが、レコードの偏心によるようなゆっくりした音の揺れが感じられます。

SIDE 2 のバンド 1 : 1/3 オクターブバンド・ノイズ、中心周波数 25Hz~16kHz、左チャンネルとバンド 2 ; 1/3 オクターブバンド・ノイズ、中心周波数 25Hz~16kHz、右チャンネルは、31.5Hz くらいから聴こえ始め、10kHz が限度です。1/3 オクターブバンド・ノイズでは、ビリつきや共振はありません。

バンド 2 と 3 の中間部の無音溝 (インサイドフォース測定バンド) は、針先が内側にスライドしましたので、インサイドフォースキャンセラーを調整してスライドを止め、針が盤面をこする音が拾える程度にしました。

バンド 3 : 位相チェック信号、左右同相、逆相、 ± 45 度、 ± 90 度、 ± 135 度は、左右同相、逆相は問題なく、 ± 45 度、 ± 90 度、 ± 135 度は何となく落ち着かない音がします。

バンド 4 : 基準レベル、1kHz、3.54cm/sec (尖頭値)、左チャンネルとバンド 5 : 基

準レベル、1kHz、3.54cm/sec (尖頭値)、右チャンネルは、それぞれ 1KHz の音が同じくらいの音量で聴こえ、バンド 6 : 無音溝は、音がしませんでした。

4. まとめ

SIDE 1 のバンド 3 とバンド 4 では、ビリつきや共振が認められましたが、1/3 バンドスイープなどではそういった現象は認められません。結線の締め直しなどを見直していきます。無音溝でのインサイドフォースのチェックではキャンセラーの設定が少しずれていたのを調整しました。その他は特に問題を認めませんでした。

以上